

日吉津村自治基本条例策定委員会グループ1（第1回）議事録

日時：5月11日（日）午後7時15分～9時15分

場所：役場第3会議室

出席者 田中委員長、三島委員、成瀬委員、建部委員

欠席者 山路副委員長、松岡委員、河中委員、松本委員

事務局 前田課長、鬼束主事

○協議

◇自治基本条例の内容の検討について

グループ1（村民・地域）

- ・第1条は～、2条は～、という具合にして進めていく。個別（グループ）でやっていくより、全体を見ながら進めていった方がいいのでは？
- ・構成を考えながら、それにはめ込んでいくという形で、羅列して考えていく。

（事務局）

- ・箇条書きにして分かりやすくまとめていく。
- ・前文→基本原則→村民・地域、行政、議会という流れで良いのでは。条例に載るかは別として項目ごとに進めていく。

<自治の基本>

参画と協働

- ・参画と協働を考えていくと難しい。自分が自主的に動いているとあまり感じないが、客観的に見ると重みがある。
- ・自分達もそう感じることはある。行政側が主導したように見えるが。
- ・住民からの要望や意見は簡単に出るが、まとめるとなるとやはり難しい。
- ・国や行政が決めて進めようとしていることでも、住民一人一人には伝わらないかもしれない。参画と協働には住民に対する負担がかかるということを知っていただかなければならない。
- ・行政の押し付けと感ずるかもしれない。下（住民）から盛り上げるのは難しいことだ。
- ・実行委員会形式で物事を進めるが、行政側にはコーディネートしてもらうというのが重要。（実行委員会を機能させる）委員の自主性を育てることが必要。
- ・事務局が決めてしまうと、事業のマンネリ化につながる恐れがある。
- ・役割分担をきちっとする。時間をかけすぎてもいけない。主旨を理解している人が引っ張っていくことが必要。自主性を持つことで「楽しい」と思えてくる。

- ・事務局に関して、役員のポジションにも住民の方に就いてもらうなどの対策が必要なのは。(事務局長、会計など)
- ・実行委員会とはそもそも何か、という疑問を持ったまま会に出させられたりする。自分の意見を持った人が集まってやるのが実行委員会の本来の姿だ。本当に住民全体が条例をつくらうという機運なのか、という部分が気になる。
- ・実行委員会の発足時に委員会立ち上げの経過や委員会の主旨などの十分な説明が必要。
- ・企画立案から参加となるが、素人がやっても難しい。行政側にある程度指導してもらう必要はある。そういったコミュニケーションが参画と協働なのかな、と思う。
- ・住民の考え方は住民同士でも大きく違う。その部分の意思統一が必要。住民同士の協働も盛り込んでいきたい
- ・日吉津村の場合は少し特殊なのかも。村ではあるけど他の村とは状況が違う。
- ・昔と今とでは日吉津村も違ってきている。連帯意識の構築、行政との関わりを増やしていくなどが必要。
- ・横とのつながりだけでなく、世代を越えた縦のつながりも大事なこと。
- ・参画と協働という言葉もだいぶ知られるようになってきた。この言葉の本当の意味を誤解のないようにしなければならない。

環境保全

- ・村の持続的発展とは何かをもう一度見つめ直す。
- ・合併しても今のこの地域が無くなるということはない。この自然環境を維持していくことが大事。人間関係をギスギスさせないことが、環境保全につながるのでは。みんなが元気に楽しく暮らせる村が理想。助け合い、相互扶助の精神を培う。
- ・日吉津村は良い場所だ、という意識や、世代的な持続性が大切。

◇その他

(事務局)

- ・次回は、5/16(金)午後7時30分～役場で開催。

○閉会(21:15)